

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣商業高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和5年11月21日(火) 13:30~16:00
- 3 開催場所 大垣商業高等学校 校長室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した。
- 4 参加者

会長	山田 雄治	朝日大学経営学部 教授
副会長	栗田 恵世	J P コーチ&コンサルティング(株) 代表取締役
委員	岡野 智生	大垣市開発町 前自治会長
	日比野 幸江	和合地区 民生委員
	中井 恵子	本校PTA 副会長
	杉本 摩希子	本校PTA 会計監査 (欠席)
	箕浦 之治	大垣観光協会 専務理事
	石坂 信一郎	岐阜協立大学 副学長 (欠席)
	田中 禎一	大垣西ロータークラブ 青少年育成委員長 (欠席)
	正田 嗣文	大垣ビジネスサポートセンター センター長
学 校 側		
	増田 康宏	校長
	高木 裕直	副校長
	小森 妙子	事務部長
	岡戸 邦仁	教頭
	下平 昌子	教頭
	瀬瀬 サオリ	教務主任 (全日制)
	井村 仁美	教務主任 (定時制)

5 会議の概要 (協議事項)

(1) 地域と連携した教育活動に関する事項について

- ・本年度の地域連携に係る取組の進捗状況と今後の予定について報告

意見1：中小企業の中にも、海外展開を見据えている企業が増えてきている。台湾との連携事業は、今後、様々な取組の可能性を感じる素晴らしい事業である。

意見2：販売実習で取り扱う商品の価格設定を検討する授業を見学した。市場データを分析することを取り入れるとよい。販売後の分析を行うことにつながる。

意見3：大垣市は海外とのふれあいの少ない地域である。企業は海外に販路を求めている。国際交流の経験を学生時代に体験できることは貴重である。

意見4：地域連携においては、地域の大人と関わることにより、ボキャブラリーが豊かになり、成長が期待できる。

意見5：コロナ禍が明け、地区センター祭りやふれあい活動などに吹奏楽部や茶華道部、なぎなた部などがボランティアとして参加できる機会がもてるようになってきた。

意見6：販売実習の現場に行ったが、すでに完売となり購入できなかった。電子商取引の学習としてオンライン予約を取り入れてほしい。

(2) 学校評価（外部評価）結果に関する事項について

- ・学校評価の結果について報告

意見1：学校評価アンケートの調査対象者を抽出ではなく、全生徒および保護者に実施したことは、適切なことである。

意見2：「家庭との連携」の結果において、保護者に学校の様子が伝わりづらい。

例：大学入学共通テストを進学者全員が受験することになった経緯

⇒ 本校生徒に大学入学共通テストを受験させるのは、高校卒業まで学び続ける環境を整えたいからである。また、大学入学後に学力が理由で、途中で挫折することを防ぎたい。大学生のうち、商業高校出身の生徒は6%程度である。ほとんどの生徒は大学入学共通テストを受験して大学に入学する。本校では、スタディサプリなどを活用している。

意見3：「いじめの対応」の結果において、生徒からはよい結果が得られているが、保護者は「わからない」の回答が多い。

⇒ 毎月、いじめアンケートを実施している。Webを利用してアンケートを実施しており、生徒自身で完結しているため、保護者に様子が伝わりづらい現状がある。

6 会議のまとめ

- ・第2回学校運営協議会では、実際に地域連携の授業を参観し、地域連携の在り方について様々な立場から意見が得られた。
- ・学校評価の結果に対する意見も踏まえ、今後の学校運営やふるさと教育推進の参考としたい。